

つ・な・が・る

Tsu-na-ga-ru



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

地域が必要なもの、
実現し、続けるのが使命。

地域医療特集

CONTENTS

- 1 治療を学ぼう
- 2 チーム医療を知ろう
- 3 地域医療を学ぼう!
- 4 最新TOPICS
- 5 HOSPITAL NEWS

院長メッセージ

病院広報誌をリニューアルいたしました。「つ・な・が・る」という名前は病院職員の公募により決定しました。地域で暮らす皆さまと当院、地域の医療機関や介護施設の皆さまと当院の繋がりを強化し、より良い地域医療を実現したいという想いが込められています。今後も広報活動の充実を図っていきますので、ご期待ください。



SPECIAL REPORT

地域が必要なもの、 実現し、続けるのが使命。

地域医療特集

市民病院だからこそ、地域の5年後10年後を
しっかりと見据え、柔軟に対応する。

CHAPTER 01 キュアとケアを分け、地域の がん医療の集約化を図る。

平成31年4月、愛知県がんセンター愛知病院が、岡崎市に経営移管され、岡崎市民病院との間で、医療機能再編が進められた。統合、そして再編は、この地域に何をもたらすのだろうか。

「実現させたのは、〈がん医療の集約化〉です」と、院長の早川文雄医師は語る。「がん医療におけるキュア（根本的治療）とケア（生活に寄り添う全人的な医療・看護）、すなわち、短期集中的な高度急性期・急性期治療と、それ以降の治療と療養生活の医学的支援とに機能を分け、前者は岡崎市民病院が、後者を愛知病院が担います。これにより、当院は広範囲で総合的・専門的ながん治療を提供し、愛知病院は地域に帰るための支援を行う。つまり、がんのあらゆる領域・ステージに対応できる診療体制と、発症から入院治療、通院治療を含む在宅復帰まで、継続的に提供できる体制を作り上げました」。

異なる病院の統合では、医療スタッフの関係性が心配される。例えば医師の場合、問題はなかったのか。「2病院とも、ほとんどの診療科の派遣医局が名古屋大学です。そのため、考え方やスタンスに若干の違いはあっても、ベースになる科学的根拠が共通で相互乗り入れができ、診療部長たちは、それぞれの良いところを取り入れよ

CHAPTER 02 経営の効率化と、 ほんの少しの余裕を これからに活かす。

「がん医療を一つに纏めるのは、〈今〉の地域に必要なことでした。ただ、それだけではだめです」と早川は言う。「この地域は、今後、高齢化が急ピッチで進みます。人口動態、疾病構造が大きく変わる。当然、〈これから〉地域に必要とされるものも、どんどん変わる。その対応が必要です」。

具体的には、「超高齢社会では、高度急性期・急性期治療後の受け皿と、在宅療養患者さんの急性増悪対応が必要です。愛知病院もそこを担いますが、それだけでは足りません」と言い、こう続ける。「当院は、高齢者の在宅療養・生活支援は不得意です。でもそれを担ってくださる病院やスタッフの支援は可能です。また、郊外部においては不採算な面もあり、民間病院では難しいかもしれません。そこは当院が何とかしなければと思います」。

BACK-STAGE

超高齢社会を支える、 公立病院の使命とは何か。

●岡崎市民病院は、救急搬送年間9,989台、一日平均27台（いずれも平成30年実績）の超過密状態。入院病床が常に満床状況であった同院にとって、今回の統合は、地域のニーズへの対応、そしてリソースの効率的な活用面で、大きな成果を挙げるものと考ええる。但し、超高齢社会への整備が遅れるこの地域においては、介護・福祉と繋ぐための医療不足が大きく心配される。そこを愛知病院が担うにしても、在宅復帰・在宅医療の支援機能を支える機能自体が足りないのだ。高度医療を領域とする病院であっても、「公立病院であるなら、そこを担うのが使命である」。早川院長の言葉は、さまざまな医療圏にとって示唆に富むのではないだろうか。

うとしてくれています」。

看護はどうか。これまで同院では、非常に短い時間で多くの患者へのケアが必要であり、一方、愛知病院では比較的ゆとりと、濃密なケアが求められていた。「確かに文化や価値観の違いはありましたが、看護師たちは、看護の本質は同じであるとし、双方の利点を活かした、新たな看護の構築に力を注いでくれています」。

なるほど、単に形だけ「二つが一つになった」ではないようだ。「今回の統合は、1+1が2ではなく、3にも4にもなる。そうした可能性を示すことができたと思います。この地域では、がん医療の高度な機能があつたにもかかわらず、利用する不便さで域外流出の患者さんがいたのですが、その流れをも止めることができるのではないかと思います」。

COLUMN

●高度医療の雄として、定評を得る岡崎市民病院。医師教育においても、毎年、初期研修医を15名集め、自他共に認める実績を上げている。「超高齢社会では、専門医療だけでは対応できません。医師は、自らの専門領域を究めると同時に、総合的な視点を持ち合わせることも不可欠です。2病院統合のメリットを活かし、新たなスタイルで、医師をはじめ、メディカルスタッフのマグネット病院として、その機能を発揮していきたいですね」（早川）。

岡崎市民病院が、在宅まで担うのだろうか。「もちろん、高度な急性期医療は、守り続けます。また、他の医療機関が充分にやってくださるところはお任せします」。

ではどうやるのか。「今回の統合で、当院は高度な医療に特化でき、効率的な経営を図ることができるはずです。また、令和2年4月開設の藤田医科大学岡崎医療センターは、二次救急を担ってくれて、それを契機に、負担の重さから救急に「一足を踏んでいた病院が、少しでもまたやろうと考え、てくださっています。となると、救急対応に追われ続けていた当院に、少し余裕が生まれる。その結果、余力を、今後必要となる領域に投入できると考えます」。

早川は語る。「当院は市民のための公立病院です。住民の安心・安全を守ることが第一義。高度急性期しかやらないとか、病床数も今の規模でといった発想ではなく、地域が必要とするものを、実現し続ける。それが当院の使命だと考えています」。微笑みを見せて言葉を締め括った。

治療を学ぼう

今回のテーマ

ロボット支援手術

■ 前立腺がんを皮切りに、 ■ 適用範囲が広がっています。

当院では、令和2年6月を目処に、手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を用いたロボット支援手術を開始する予定です。ロボット支援手術は内視鏡手術の一つで、医師が直接、内視鏡や鉗子などを操作する従来の内視鏡手術とは異なり、医師の遠隔操作のもと、ロボットが器具を動かして行います。もともとは米国の技術ですが、日本においても平成24年に前立腺がんに対する前立腺全摘除術が保険適用されて以降、全国で多くの手術が実施され、治療法として確立してきました。現在では、前立腺がんに加え、腎がん、胃がん、食道がん、直腸がん、肺がん、縦隔悪性腫瘍、膀胱がん、子宮体がんなどの多様な領域で、保険適用下でのロボット支援手術が可能となります。当院においても前立腺がんから始め、徐々に対象を広げていく予定です。



ロボット支援手術とは？

医師がロボットを遠隔操作して行う内視鏡手術。
正確で負担の少ない手術が可能です。

■ ロボットの特長を活かした、 ■ 繊細で正確な手術です。

ロボット支援手術には、内視鏡手術の持つ「出血量が少ない」「傷が小さく回復も早い」などの特長に加え、機械ならではの良さがあります。まずは「繊細で精密な動作」。ダヴィンチの鉗子には360度回転可能な関節があり、コンピュータ制御により手振れも補正されます。そのため小さなスペースでも繊細な手術を行うことができ、尿道と膀胱を縫い合わせるような難度の高い手技も、正確に安定して行うことが可能です。次に「鮮明かつ立体的な視野」。従来の内視鏡手術では二次元画像を見ながら手術をしますが、ダヴィンチでは、ズーム機能を搭載した3Dカメラを用いるため、正確な位置感覚に基づいて手術を行うことができます。当院では、ダヴィンチの最新機種である「Xi」を導入し、こうした特長を活かしながら、正確で体に負担の少ない手術を提供していきたいと思っています。



Doctor's message



泌尿器科部長
泌尿器科専門医・指導医
勝野 暁

初症例から質の高い手術を行えるよう、 準備を進めています。

がん診療連携拠点病院である当院にとって、がん治療のラインナップを揃え、患者さんの選択肢を増やすことは重要です。当科では、今回「ダヴィンチXi」を導入することで、泌尿器科がんに関するほぼすべての治療を提供できるようになります。

しかし、最新機器を導入しても、使う側の知識や技術が伴わなければ意味がありません。

そのため当科では、私を含めたロボット支援手術に関わるスタッフが、他院での見学や、勉強会、研修などに積極的に参加し研鑽を積んでいます。また、令和2年4月にはロボット支援手術のエキスパートである医師も赴任予定ですので、同医師と協力し、初症例からハイレベルな手術を行えるよう、準備を進めていきたいと思っています。



プラス
α

▶花粉症の対策①

花粉を部屋に入れないよう、花粉が付着しにくいスベスベした素材の服を選びましょう。

チーム医療を知ろう

今回のテーマ

がんサポートチーム

がん患者さんが安心・安全に治療や療養を行えるよう、
多方面からサポートを行っています。

■ がんを治すだけでなく、 ■ がん患者さんのQOL支援にも ■ 力を入れています。

がんは私たちの身の回りに当たり前にある病気となり、治療の進歩に伴って、がんをコントロールしながら生活続ける人も増えてきています。その一方で、がん患者さんの多くは、診断、治療、療養といったさまざまな局面で、悩みや不安、苦痛を抱えるもの。私たち病院も、かつてのように「がんを治す」だけでなく、がん患者さんが生活の質を保ちながら暮らしていけるよう、支援機能を高めていかなければなりません。当院では、そうしたがん患者さんのために、緩和ケアチームやがん相談支援センター、がん看護外来を開設するなど、さまざまな取り組みを進めています。そして、それらの部門を総称して「がんサポートチーム」と呼んでいます。



■ 3つの部門を中心に、 ■ 多部門、多職種が連携して ■ がん患者さんを支えます。

がんサポートチームのなかで、「緩和ケアチーム」は、がんに伴う体や心の苦痛を中心に、症状を和らげ、治療・療養生活を送るためのサポートを行う部門。「がん相談支援センター」は、患者さんやご家族の持つ、がんに関する社会的・経済的問題や不安・疑問をお聞きし、その解決のお手伝いをする部門です。また「がん看護外来」では、専門知識を持つ看護師が、医師とはまた違った目線から、日常的なケアや指導などを行っています。そしてこれらの部門は、個別に活動するだけでなく、それぞれが情報を共有し、他部門や院内外の専門職とも密に連携。がん患者さんの安心・安全な治療や社会生活を多方面から支援しているのです。



Staff's message



副院長(緩和ケアチーム)
鈴木 祐一 (左)
がん性疼痛看護認定看護師
(緩和ケアチーム)
森 千晴 (右)

がんの治療・療養でお悩みの方は、 遠慮なく私たちにご相談ください。

がんに伴う苦痛や不安、悩みは千差万別ですし、一人ひとり希望や生活環境も異なります。そのため、私たちががんサポートチームのスタッフは、患者さんやご家族とのお話を何より大切に、それぞれの意向やベースに合わせた支援を行う心がけています。また、退院後も安心して生活を続けていただけるよう、講演会や勉強会の開催をはじめ、地域の皆さん

と繋がり、地域全体でがん患者さんを支えていくための活動も行っています。がんでお困りの方は、どんな些細なことでも構いません。まずは近くの医療者に相談し、当院に繋いでもらってください。そしてその先で、私たちと一緒に望む生活を取り戻していきましょう。

がん相談支援センターのご案内

看護師やMSWがご相談をお受けしています。

- 相談場所：西棟1階・売店前
- 時間：平日午前9時～午後4時

プラス
α

▶花粉症の対策②

自宅に入るときは、玄関先で衣類や髪、カバンなどについた花粉を払い落としましょう。

地域医療を学ぼう！

今回学ぶテーマ

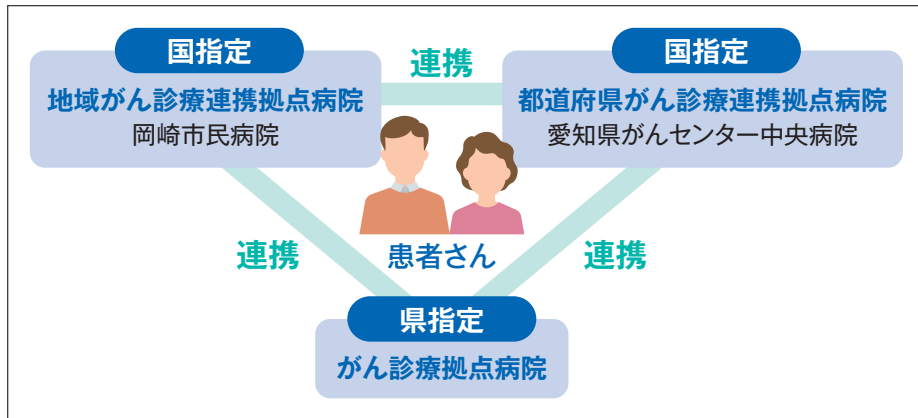
がん診療連携
拠点病院等

全国どこでも質の高いがん医療が受けられるよう、
各地域で拠点となる病院が指定されています。

✓がん診療連携拠点病院は、
幾つかの種類に分かれます。

がん診療連携拠点病院等とは、全国どこでも質の高いがん医療を受けられるように、厚生労働大臣が地域ごとに指定したがん診療の拠点となる病院です。がん診療連携拠点病院等には、都道府県の拠点である「都道府県がん診療連携拠点病院」や、二次医療圏(※)の拠点となる「地域がん診療連携拠点病院」など幾つかの種類があり、がん医療の内容、診療実績、設備、相談体制など一定の要件を満たした病院が指定されます。また、こうした国(厚生労働大臣)の指定に加え、各都道府県知事がそれに準じる病院を拠点病院として指定することもあります。

※複数の市区町村で構成される病床整備のための区域。



✓小児・AYA世代のがん拠点病院など、
新しい制度も始まりました。

令和元年7月の時点で、都道府県がん診療連携拠点病院は全国で51病院、地域がん診療連携拠点病院については339病院が指定を受けています。また、最近では、小児・AYA世代のがんに対し、小児がん拠点病院や小児がん中央機関が指定されるなど、より良いがん診療体制の実現に向けた、新しい取り組みも始まっています。

岡崎市では？

岡崎市立愛知病院とも協力しながら、
がん診療連携拠点病院としての機能を高めていきます。

現在、岡崎市のある西三河南部東医療圏(岡崎市・幸田町)においては、当院が、地域がん診療連携拠点病院として国から指定を受けています。以前は、愛知県がんセンター愛知病院が国の指定する拠点病院でしたが、同院の経営が岡崎市に移管されたことに伴い、平成31年4月からは、当院がその役割を担うことになりました。

私たちの暮らす西三河南部東医療圏は、

実は、本格的にがんを診療できる病院がとても少ない地域です。そのため当院では、国の指定を受ける以前から、放射線治療体制の整備や、がん患者さんの支援機能の強化など、他地域に行かなくても充分ながん医療とサポートを受けていただけるよう、機能強化を進めてきました。今後は、愛知病院と一体になって、さらに充実したがん医療体制を整備していきたいと思っています。



プラス
α

花粉症の対策③

花粉シーズンは、布団・洗濯物はなるべく部屋干し。外干しの場合、外でよくはたきます。

最新

TOPICS

TOPICS
01

岡崎市民病院フェスティバル開催！
楽しく学べる一日になりました。

令和元年10月5日に岡崎市民病院フェスティバル2019が開催されました。今回のテーマは「医療の世界をのぞいてみよう」というもので、普段患者さんとして、またお見舞いなどで来院された際には見ることのできないスペースのガイドつきツアーや、子どもたちが医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師などの仕事を体験できる企画などをふんだんに盛り込みました。その他にも開場前から行列ができるほどの人気を博した健康測定コーナー(部位別筋肉量・体点数、血管年齢測定、骨密度測定)や、当院でがん治療をしながら演奏活動を続けるサックス奏者のジャズライブなど、多彩なイベントが催されました。小さなお子さんからお年寄りまで約2500人の地域住民の皆さんがご来場になり、楽しく学べる一日となりました。主催した当院としては、この日来場してくれたお子さんが将来医療職をめざし、地域医療を支えてくれたらとてうれしいです。



TOPICS
02

院内売店が生まれ変わりました。
ファミリーマート開店！

令和元年10月8日、院内の売店が「ファミリーマート」としてリニューアルオープンしました。おにぎり、お弁当、サンドウィッチ、カップ麺、ペットボトル飲料、お菓子、雑誌など、通常のコンビニエンスストアで取り扱われる商品はもちろんのこと、マスクや医療衛生用品など病院内で需要の高い商品を豊富に取り揃えていただきました。ぜひご活用ください。

場 所 1階(西館へ向かう通路)

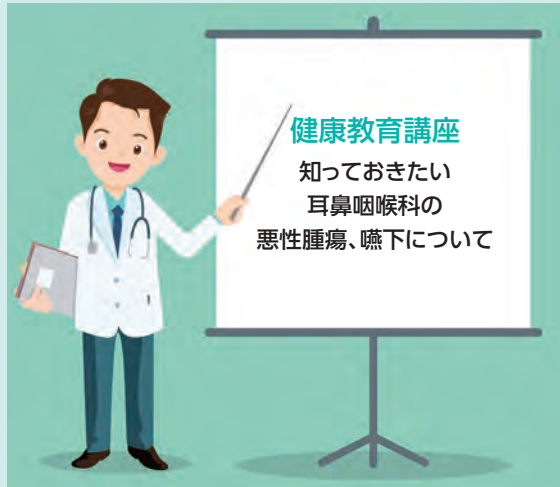
営業時間 午前7時～午後10時



TOPICS
03

耳鼻咽喉科のがんや嚥下について、
当院の都築医師が講演しました。

令和2年1月19日、愛知県医師会と岡崎市医師会が主催する健康教育講座において、耳鼻咽喉科の都築秀典医師が講演を行いました。テーマは「知っておきたい耳鼻咽喉科の悪性腫瘍、嚥下について」。口腔がん、咽頭がん、喉頭がんといったがんの特徴や治療法と、嚥下の動きや誤嚥の予防法などについて都築医師が詳しく解説し、参加された皆さんも興味深く聞き入っていました。



プラス
α

花粉症の対策④

部屋を加湿すると、湿気で花粉が重くなって飛散を防ぎます。室内は加湿器の使用が効果的。

診察待ちのモバイル呼び出しシステムの試験運用を開始しました。

岡崎市民病院では、患者さんに診察までの待ち時間を有効にご活用いただくために、ご自身のモバイル（スマホ、携帯電話など）を利用して診察待ち状況を把握できるサービスを試験的に運用することになりました。待ち時間を院内のレストランで過ごしたり、自家用車内でゆっくりするなど自由に有効にご活用ください。

モバイル呼び出しシステムの特徴

- 診察の待ち状況がスマホ、携帯電話などで確認できます。
- 待ち時間が近くなるとお知らせのメールが届きます。
- 受診予約日の前日にお知らせメールが届きます。

ご利用の際は、**受診票のQRコードをスマホ、携帯電話などで読み込んで登録ください。**

ご登録の流れ

- 1 QRコードを読み取り、表示されるURLを開く
- 2 「メール送付」をクリックし、内容変更せずにメールを送信
- 3 登録完了のメールが届き、登録完了

※一部、本サービスをご利用いただけない診療科（下記）がございます。

・小児科、眼科、放射線治療科、検査部門など

モバイル呼び出しシステムの詳細はこちら



地域医療連携 e連携

地域医療連携の強化を見つめ、 インターネット予約システム導入！

令和2年5月より、当院では診療所からの患者さんご紹介に関して、インターネット予約システム「e連携」の活用を開始します。これまでは電話とFAXにて行ってきましたが、当院の混雑時には診療所の先生をお待たせしたり、聞き間違いといったヒューマンエラーが発生する場合があります。今回導入の本システムでは、そうしたことはなく、診療所の先生には予約業務の負担を軽減し、電話でないと難しい予約にだけ、専念していただくことが可能。また、患者さんには、診療所受診時の迅速な予約による安心を実現することができます。



PET-CT 導入予告

小さながんを早期発見！ PET-CTが導入されます。

皆さんは、PET-CTという検査機器をご存知ですか？ がんの活動状態（良性・悪性、再発か否かなど）を知るのに適したPET検査と、がん細胞の形態（大きさ・形状、どの臓器・どの部分にあるかなど）を知るのに適したCT検査、2つの検査を同時に行うことができる高精度検査機器がPET-CTです。2つの検査画像を合わせて診断することで、より正確に早期にがん細胞を発見することができます。そのPET-CTが令和2年4月から稼働します。詳細は次号でお知らせいたします。



岡崎市民病院
OKAZAKI CITY HOSPITAL

〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1
TEL 0564-21-8111 <https://www.okazakihospital.jp/>

つながる
Tsu-na-ga-ru

2020
No.01 4月号

発行責任者／院長 早川文雄
発行／岡崎市民病院 広報グループ
記事提供／中日新聞広告局
編集協力／プロジェクトリンク事務局
発行日／2020年4月1日

つながる 特設サイト

